

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こどもサポート教室「きらり」富田校			
○保護者評価実施期間	2024年11月11日 ～ 2024年12月20日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	25人	(回答者数)	19人
○従業者評価実施期間	2024年11月11日 ～ 2024年12月20日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7人	(回答者数)	7人
○事業者向け自己評価表作成日	2025年1月10日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個別療育が主だが、就学前準備として小集団活動を取り入れている。	集団活動の内容を多岐にわたるものにし、様々なスキルが育まれるように配慮している。	保護者と定期的に話し合いを持ち、こどもの進捗や家庭での様子を共有することで、一貫性のある支援を行う。
2	支援後のフィードバックは家族との対話を通じて深めている。	フィードバックを行う際に、こどもの成長や頑張りを伝えることで、保護者が前向きに受け止めやすくなるようにしている。	フィードバック内容を職員間で共有する仕組みを整えることで、職員全体の支援の質の向上を図る。
3	支援の実施は担当制にしている。この体制により、担当者同士が情報を共有しながら支援を進めることができる。	2名の担当者をつけることで、情報共有や意見交換をしながら支援を進めることができる。	担当者同士がミーティングを行い、支援状況や課題、利用者の変化について意見交換をすることで、支援内容の見直しや改善を迅速に行う。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	職員の経験や専門性知識の違いにより、支援の質にばらつきが生じることがある。	職員の業務負担やモチベーションの違いが、支援の質に影響を与えている。	職員のやりがいやモチベーションを高めるため、適切なサポートや成果を評価し、仕事の満足度の向上を図る。
2	小集団活動における効果的な支援方法やスキルが足りない。	支援準備に必要な時間が不足し、支援がスムーズに行えない。また、職員が集団活動の実践経験を十分に積んでいないことで、適切な支援方法を選ぶことができない。	実際の支援場面を想定したロールプレイを通じて、職員が様々な状況に柔軟に対応できるスキルを身に付けていく。
3	こどもを制止できない時がある。	こどもが危険に近づかないように予防策を講じたり、注意を引く方法を見つけていく。	保護者と職員が情報を共有し、一貫した対応を取る。家庭での対応方法と施設での対応を一致させる。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 こどもサポート教室「きらり」 富田校

公表日 2025 年 2 月 15 日

利用児童数

25人

回収数

19人

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	15	3	1		体を動かす活動をするには少し狭く感じます。	現在のスペースで無理なく行える活動をさらに検討し、安全に配慮した内容を考えていく。
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	19				子ども一人に職員が一人配置され、手厚いと思います。	定員以上に職員を配置している。個別療育のため担当制にしているが、職員間で情報共有をしている。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	18			1		こどもの特性や用途、ほかの児童との組み合わせによってスペースを使い分けている。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	18	1				笑顔でこどもたちをお迎えすることを心掛けている。清掃と感染対策の徹底をしている。
適切な 支援の 提供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	18	1			支援員さんによって専門性が異なり支援に差を感じます。	職員が持つ知識やスキルを共有する場を設け、お互いの得意分野を活かし、支援の質を向上させていく。
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	18	1				支援内容と統合している。
	7	こどものことを十分に理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	18	1				こども一人ひとりを十分に理解した上で、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析し、支援計画を作成している。
	8	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	18	1				設定されている支援内容に不明点や改善が必要な部分があれば、検討していく。
	9	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	18	1			プログラムが少なく遊びの時間が多いと感じます。	支援計画に基づき、計画内容に沿った形で支援を実施していく。
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	18	1			支援員さんによって異なります。	幅を広げた活動を取り入れながら、出来た喜びや達成感を味わえるように職員間で情報共有していく。
	11	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	7	2	6	4		個別療育のため、活動していない。
保護者 への 説	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	19					契約時、丁寧な対応を心掛けている。
	13	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	19					常に丁寧な説明を心掛けている。
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	10	3	1	5		ペアトレーニングや研修会、情報共有の機会は設けていないが、フィードバックを活用して必要な情報やアドバイスを提供している。
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていると思いますか。	17	1	1		フィードバックや支援内容を事業所内で共有されていないのかな？と思うことが多いです。	職員間で情報共有を強化していく。
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	18	1			子育てに関する助言はないです。	職員間で情報共有を強化していき、保護者のニーズに合わせた助言や支援策を具体化し、個別に対応できる体制を構築していく。
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	19					子育てに関する助言や支援を通じて、保護者がこどもの成長をあたかく見守れるようサポートしている。

明 等	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	12	4		3		年に2回ほど保護者会を開催している。
	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	16	1		2		相談や申し出があった場合は迅速に対応している。
	20	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	18	1				些細なことでも確認や報告を行い、保護者からきちんと対応してくれていると感じられるように努めていく。
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	15	2		2		ホームページやLINEにて情報を発信している。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	19					鍵付きの書庫で保管している。
非 常 時 等 の 対 応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	16	1		2		常に丁寧な説明を心掛けている。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	16			3		常に丁寧な説明を心掛けている。
	25	事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	16	1		2		常に丁寧な説明を心掛けている。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	15	1		3		常に丁寧な説明を心掛けている。
満 足 度	27	こどもは安心感をもって通所していますか。	19					今後もこどもたちの気持ちを受け止めながら、誠実に対応していく。
	28	こどもは通所を楽しみにしていますか。	19				「きらりさんに行く？」と聞くと「楽しみ～行くから」と言っています。	今後もお子様にとって楽しい場所・心地良い場所を提供していく。
	29	事業所の支援に満足していますか。	18	1			一つひとつのプログラムの内容がどういう意図をもって行っているのかわかりたいです。	今後もこどもたちの特性を理解し、こどもたちに寄り添った支援を提供出来るように努めていく。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日				
こどもサポート教室「きらり」富田校		2025 年 2 月 15 日				
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		パーテーションで間仕切りをし、個別療育の適切なスペースを作っている。		
	2 利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		定員以上に配置している。		
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		利用児の特性や用途、他の児童との組み合わせによってスペースを使い分けている。		
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		清掃と感染対策の徹底をしている。		
	5 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		個別の部屋や居場所を使用できるよう配慮している。心地の良い空間を提供している。		
業務改善	6 業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○		共有ファイルを使って、進捗状況を随時確認できるように進めている。		
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		頂いた意見をもとに検討、改善している。		
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		日々ミーティングを実施し、業務に関する問題点や改善策を自由に話し合える場を提供し、その意見をもとに業務改善に繋がる具体策を検討している。		
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○		現在は利用者・社内の二者評価をとっている。	
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		ZOOM会議を使用した定例研修や外部研修の受講をしている。		
適切な支援の提供	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		利用者やそのご家族からの意見やフィードバックを積極的に取り入れ、プログラムの改善に活かしている。		
	12 個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	○		アセスメントを適切に行い、ニーズ、課題を分析して作成している。		
	13 児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		定期的に担当者会議や情報共有の場を設け、こどもの成長や課題について話し合い、職員間で意見を交換する場を設けている。		
	14 児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		児童発達支援計画を元に支援内容を取り組み立てて実施している。		
	15 こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		日々の行動観察やインフォーマルなアセスメントを通じて、年に一度アセスメントシートを活用して確認している。		
	16 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		ガイドラインに基づき、利用者一人ひとりの状況やニーズに合わせた支援を行っている。		
	17 活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		児童発達支援計画をチームで話し合い作成している。		

供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		児童発達支援計画をチームで話し合い作成している。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ、児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	○		個別対応が主であるが、利用者の状況に応じて、集団SSTを取り入れている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		朝のミーティングを実施している。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		必要に応じて終業前にミーティングを実施している。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		日々の支援記録をとり、検証・改善につなげている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		6ヶ月以内に1回以上、モニタリングを実施している。	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		サービス担当者会議は基本担当指導員が参加するようにしている。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		必要に応じて連携している。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。		○		連携を図ることで、支援の質の向上と、より個別化された対応ができるようにしていく。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。		○		現在は個別療育のアプローチが中心となっているため、まだ十分な情報共有や相互理解が進んでいない場面がある。今後、連携を図っていく。
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	○		こども発達支援センターと連携し、研修にも参加している。	
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。		○		短時間の療育のため、実施していない。今後検討していく。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		日々の振り返り時に行っている。	
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		日々の振り返り時に保護者へのアドバイスをしている。	
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		契約時に丁寧に説明している。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点から踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		利用者様や保護者様との対話を通じて、利用者様のニーズや家庭の状況を理解し、支援方法を調整している。	

保護者への説明等	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○		こどもや保護者の意向を優先しつつ、支援目標がこどもにとって適切かを見極めたうえで柔軟に対応している。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		日々の振り返り、およびモニタリングや面談の時間を設け相談に応じている。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○		年に2回ほど開催している。	
	40	こどもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		相談や申し入れがあった時には迅速に対応している。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		ホームページやLINEにて情報を発信している。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		鍵付き書庫にて管理している。	
	43	障害のあるこどもや保護者との意思疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		障がい配慮して意思疎通の工夫を行っている。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○		地域の安全を高めるために警察署や消防署を招いて避難訓練を実施している。	
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		各種マニュアルを作成し、職員・保護者に周知している。	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		1か月に1度避難・防災訓練を行っている。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		契約時に確認している。	
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。		○		食事の提供はないが、契約時にアレルギーの有無について確認をしている。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		毎月様々な状況の訓練を行っている。	
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		今後、安全計画の内容を家族に理解してもらい、利用者が安心して成長できる環境を作っていく。	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		ヒヤリハットを小さな状況でも作成し共有できるツールを活用している。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		虐待防止委員会を設置し、毎月1回、研修を受講している。	
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○		契約時に説明をし、やむを得ず身体拘束を行う場合は個別支援計画に記載する。	